

令和元年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・ハイレベルな文武両道により、高い学力と豊かな人間性を育む。	①普通科・スポーツ科学科の教育課程を精査し、検証していく。 ②体育を特色としたさまざまな学習指導の取組みを行う。	①普通科では、国語・数学・英語の授業を充実させる。スポーツ科学科では、国語・数学・英語以外に専門的な内容の授業も充実させる。 ②豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的にスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む態度を授業を通して啓発し育成する。	①教育課程に基づき、充実した授業が実施できたか。 ②豊かなスポーツライフの実現に向けて、日常的にスポーツに親しみ体力向上、健康増進に取り組む態度を育成できたか。	①生徒による授業評価においては入学当初に比べると全体的にレベルは上がっていることがわかる。家庭学習においても増加傾向にあり、学習に対する意識の向上がうかがえる。スポーツ科学科では専門的な内容の教育課程を編成することができた。 ②豊かなスポーツライフの実現に向けて、授業においてスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む働きかけを行った。	①将来の目標を持たせつつ日々の課題や週末課題を課すことにより、毎日の授業を充実させ、さらに家庭学習の定着を図る。 ②引き続き、豊かなスポーツライフの実現に向けて、授業においてスポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む働きかけを行う。	①さらに発展していけるような持続可能な教育課程が編成されるとよい。 ①学習に対する意識の向上が見られたことは充実した授業の成果だ。 ②スポーツを特色とした教育活動が充実していることがうかがえる。 ①②取り組み内容が不明瞭な部分があるが、成果としてレベルアップにつながっているようなので、目標に着実に近づいているものと判断する。	①学習に対する意識が向上してきているが、家庭学習の定着についてはまだまだ課題が残る。 ②スポーツ科学科では専門的な教育を施すことができています。 ②授業において、スポーツに親しみ、体力向上、健康増進に取り組む働きかけを行った。今後も健康増進に取り組む働きかけを継続することが課題である。	①さらなる学力向上を目指し、各教科で適宜課題を課すなど、家庭学習時間を確保できるような工夫をする。 ②豊かなスポーツライフの実現に向けて、授業において、スポーツに親しみ体力向上、健康増進に取り組む働きかけを増やしていく。
2 生徒指導・支援	・部活動や行事に主体的に取り組み、自ら誇りを持ってのびやかで規律正しい生活を送る校風を維持する。	①規律正しい生活と安心安全な学校生活を維持できるよう支援する。 ②部活動・行事における教育力、生徒の人間性、主体性の伸長を図る。	①教職員が一丸となりマナー、モラルの向上を指導・支援する。 ①交通安全指導を重点的に実施する。 ②入部率70%以上を目標に入部率の向上に努める。	①生徒への指導が徹底できたか。 ①校外登校指導を実施できたか。 ②入部率70%以上を達成できたか。	①一部、担任団の中で指導の温度差があったが、概ね達成できた。 ①定例の校外指導に加えて臨時的校外指導を2度行った。 ②今年度の入部率は64.1%で、昨年度とほぼ同じであった。	①若い教員が増えてきたことでベテラン教員が考えている指導との温度差を感じるようになった。指導内規を見直し温度差が小さくなるよう留意したい。 ①今後も適切な時期に交通安全指導を実施していきたい。 ②特に文化部の入部率が低下しているため、入部を促せるようにし、要望があれば新たな部の創設も考えていく。	①きめ細かい生徒指導がされている。 ①通学途中の生徒にあいさつすると、あいさつや会釈が返ってくるのがよい。 ①自転車乗車マナーをはじめ、世の中のルールの指導に日頃から取り組むことは大切だ。 ②入部率の低下に関しては、入部しない理由を把握するとともに、生徒のニーズに合う対応を考えてみてはどうか。	①校内の生徒指導については一定の評価を得ることができた。 ①交通安全指導など校外でのマナーについては課題を残す結果となった。 ②入部率70%は達成できなかった。なるべく多くの生徒が部活動に加入するような工夫をすることが課題である。	①校内では、引き続ききめ細かい生徒指導を継続していく。 ①校外での街頭指導を定期的なものに加え、不定期に実施する。 ①交通安全指導についてはHRでの指導だけではなく、今年度実施したように生徒指導担当者による全体指導を全校集会や放送などで実施する。 ②クラス担任などと連携を取りながら部活動への積極的な参加を促す。

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月13日)	総合評価(3月24日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	・目標を持ち努力し続けることで一つ上の進路実現を目指す生徒を育てる。	①目標を早く定め、積極的かつ意欲的に行動するように進路指導を行う。	①進路指導室をより充実させ、欲しい情報を得やすい環境を作る。 ①ガイダンスの内容をより精選し、生徒のニーズにあったものにする。 ①新入試制度についての教員・生徒の理解を深める。	①進路指導室の資料を更新できたか。 ①ガイダンス等で生徒のニーズにあった情報を与えられたか。 ①新入試制度について教員・生徒の理解は深まったか。	①赤本等蔵書を増やし、入試対策に役立つ環境を整えた。 ①生徒のニーズに合わせたガイダンスや資料を提供するよう心掛けた。 ①新入試制度の情報について業者によるガイダンスで情報を提供した。 ①民間企業への就職は概ね希望通りのところへ入社できた。	①新入試制度に対する理解をさらに深め、来年度の進路指導に対応できるようにしていきたい。 ①安易に指定校推薦を選んで後になって後悔する生徒がいるので、慎重な指導を心掛けなければならない。 ①マニュアルを更新し、指定校推薦の日程や事務処理の方法を改善し、事故防止に努めていきたい。	①新入試制度に対応するための課題を整理することが重要だ。 ①推薦入試で学生を確保する大学も多いなか、やはり学力は重要であるので、一般受験で進学した先輩から、勉強の取り組み方や意識の持ち方などを後輩に伝える機会を作ってみてはどうか。	①進路指導室を積極的に利用して情報を集め、計画的に進路活動を進めることができた生徒は、概ね希望どおりの進路先に決定することができた。 ①安易な進路選択をし、後悔する生徒をなくしていくことが課題である。	①業者による研修会や校内研修を実施し、グループ及び担任団に情報を提供していく。 ①引き続き情報発信に努めるとともに、各クラスに配布する情報誌の量を増やし、様々な選択肢に対応できるようにする。
4	地域等との協働	・地域の教育力を積極的に活用する。	①厚木北高校の情報を積極的に中学生、保護者、地域に向けて発信する。 ②地域の理解と協力を得た教育活動を行う。	①学校説明会や学校案内を工夫し、北高の魅力を中学生やその保護者に伝える。 ①HPの内容を充実させ、効果的に情報を発信する。 ②学校運営協議会を設置し、地域の理解と協力を得た教育活動を行う。	①十分な受検者数を確保できたか。 ①HPのこまめな更新ができたか。 ②学校運営協議会により、地域の理解と協力を得た教育活動を行うことができたか。	①普通科、スポーツ科学科とも、志願者数が定員に満たなかった。 ①HPの更新回数が少なかった。 ②学校運営協議会を設置し、地域の意見を得ることができた。	①学校紹介ビデオのリニューアルや学校案内の全県配付などの工夫は引き続き行い、HPの内容充実と更新に力を入れるとともに、情報発信にTwitterなどの利用も検討する。 ②部会の運営を活発にする。	①学校のイベントを地域と協働で開催することで学校のPRにつなげるとよいのではないかと。 ①積極的な情報発信は必要だが発信する内容に工夫が必要。 ②小中高大学がある地域という特色や地元愛の強い地域性を生かして連携が強化できるとよい。 ②地域の高齢者の方には様々なキャリアを持った方がいるので活用するとよい。	①学校案内と学校紹介ビデオをリニューアルし、配付地域を広げるなど、積極的な広報活動はできたが、十分な受検者数を確保できなかった。 ①HPの更新回数を大きく増やし、内容を充実させることが今後の課題である。 ②学校運営協議会を設置し、地域の様々な意見を得ることができたので、今後は具体的な連携の方法を考えていく。	①部活動を中心にHPの内容を充実させ、行事ごとに更新する。 ①情報を発信する方法としてTwitterなどの利用を検討する。 ②地域との具体的な連携の方法を考えていく。
5	学校管理 学校運営	・生徒第一に安心安全かつ快適な教育環境整備を進める。 ・チームで学校を運営する。	①学校全体の施設設備等の整備計画に基づいた設備改修を実施する。 ②チームとしての学校運営を推進する。	①学校全体のよりハイレベルな学習環境、Wi-Fi等のICT設備を充実させる。 ②特色推進・学びづくりWGが2年目になり、厚木北高校の将来の教育内容についてより具体的に検討していく。その内容について、グループ、学年、教科、部活動顧問等、すべてチームとして情報を共有する。	①学校全体のよりハイレベルな学習環境、Wi-Fi等のICT整備を充実できたか。 ②特色推進・学びづくりWG内で検討された内容についてグループ、学年、教科、部活動顧問等、チームとして情報を共有することができたか。	①学校全体のよりハイレベルな学習環境、Wi-Fi等のICT整備を行った。 ②特色推進・学びづくりWG内で検討された内容について職員会議で話し、学校全体として情報を共有し、活発な議論ができた。	①学校全体によりハイレベルな学習環境、Wi-Fi等のICT整備を充実させることができたので、今後は、機器の維持管理を行う。 ②特色推進・学びづくりWG内では、今後新カリキュラムの作成に向けて、教科全体と連携を取りながら進めていく。	①ハード面が整ったら、次はその活用能力の向上を目指すことが大事だ。 ①生徒のニーズに応じた学習環境の整備は必要だ。 ②生徒はどんな学校にしたいか、どのような方法なら実現できるのかを生徒に考えさせることも重要だ。	①学校全体でハイレベルな学習環境、Wi-Fi等のICT整備を充実させることができた。今後は機器の管理や生徒IDの発行を適切に行っていく。 ②特色推進・学びづくりWGでは、今後新カリキュラムの作成に向けて、その方向性を一覧表にまとめた。継続して、学校全体で協議しながら、より良い具体策を考えていく。また令和4年度実施の新カリキュラム作成を、各教科と連携を取りながら進めていく。	①Wi-Fi等のICT整備や生徒IDの発行を適切に行っていく。 ②特色推進・学びづくりWGでは、今後新カリキュラムの作成に向けて、教科全体と連携を取りながら進めていく。

